

2011年6月10日

株式会社 富士キメラ総研
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
 2-5 F・Kビル
 TEL.03-3664-5839 FAX.03-3661-1414
 URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
 URL : <http://www.fcr.co.jp/>
 広報部 03-3664-5697

激化する競争市場の棲み分けを分析

スレートPC(タブレットPC)を軸にモバイル(携帯型)PCの世界市場を調査

2020年予測

スレートPC 1億5,000万台(10年比882.4%) 電子書籍専用端末、PDAなどを統合して拡大
 SSD 2億1,770万個(10年比867.3%) 8,668億円(10年比483.7%)

マーケティング&コンサルティングの(株)富士キメラ総研(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 田中 一志 03-3664-5839)は、11年3月~4月下旬に、拡大顕著な世界のモバイルPC市場を形状別に調査した。その結果を調査報告書「モバイルPCとキーデバイスの実態調査及び市場展望」にまとめた。

この調査ではモバイルPCをノートブックPC、ミニノートブックPC、UMPC/ネットブックPC、コンバーチブルPC、スレートPCに5分類しそれぞれのPCがどう変化するのか、その現状と将来を調査し、更にその構成部品7分野31品目の市場動向を分析した。またメーカー分析では、アップル、ソニー、パナソニック、ヒューレットパカード、デルなど10社を取り上げた。

これら5タイプのモバイルPCはホームエンターテインメントに使用するハイエンド機から機能限定・低価格のエントリー機種まで幅広く揃っている。市場はこれまで欧米を中心に拡大し、近年中国やインド、ブラジルといった新興国において拡大している。使い易さや手軽さを背景に今後も堅調な拡大が見込まれる。Appleが10年に発表したスマートフォンと既存のモバイルPCの中間に位置づけられるスレートPC「iPad」が世界中から注目され、初年度から好調な出だしとなった。スレートPC(タブレットPC)はその他のモバイルPCともスマートフォンともあまり競合せず独自の市場を築いている。

スマートフォンは通話機能、ノートブックPC、ミニノートブックPCはキー入力というスレートPCにはない入力機能を持つため共存しながら市場を拡大していくと推測する。そしてスレートPCはPDA、電子書籍専用端末、ゲーム機などの専用型モバイル機器の需要を統合しつつ吸収して拡大していくと推測される。

スレートPCには既存のモバイルPCにほとんど搭載されなかったタッチパネルや角速度センサなどの新規部材が搭載されているため、今後この部材市場が長期的に拡大していくと予測される。

ただ11年3月11日の東日本大震災の影響を受けて一部の部材が調達困難になっており、高成長に大きく影響を及ぼすと予測される。

<調査結果の概要>

モバイルPC市場(15年、20年は予測)

単位：万台

	2010年	2015年	2020年
スレートPC	1,700	12,500	15,000
ノートブックPC	14,040	26,130	29,500
ミニノートPC	3,090	8,770	10,000
UMPC/ネットブックPC	3,200	1,400	1,000
コンバーチブルPC	160	150	150
合計	22,190	48,950	55,650

10年の既存モバイルPC(スレートPC以外)は世界市場で前年比20.6%増の2億490万台、スレートPC市場は1,700万台となった。先進国の買い替え需要とそれを上回る新興国における新規需要が高まり前年比20%以上の高い成長率を示している。

スレートPCはAppleの「iPad」が世界的なヒットとなり、モバイルPCの2台目マシンとして欧米を中心に初年度から市場を拡大した。11年は各社が相次いでスレートPCを投入しているが、Appleの高いシェアが当面は続くと推測される。

11年のモバイルPC市場は前年比5.1%増の2億1,540万台に留まると予測される。需要は高止まりしているが、東日本大震災による部材調達の困難や1-3月のチップセットトラブルの発生により高い成長は実現困難と推測される。一方スレートPCは、部材調達の困難はあるものの、立ち上がり間もない市場であることから、高成長を維持すると推測される。

モバイルPCの生産は日本、中国、その他アジアに集約されている。殆どOEM/ODM/EMS生産に集約しつつあり、製造拠点は上海や昆山（江蘇省）に集中している。ただ中国沿岸部の人件費高騰から、人件費の安い内陸部にシフトしている。今後、重慶は一大生産拠点となる見通しでPCの製品メーカーのみならず部材メーカーもここに生産拠点を設立している。

その他には、台湾、マレーシア、シンガポール、インド、ベトナムで生産を行っている。一部のメーカーは中国の人件費高騰やチャイナリスクを考慮して、東南アジアでの生産を拡大させる計画を打ち出している。今後この動きは各社で加速すると推測され、その他アジアの生産ウェイトが高まると予測する。

モバイルPC市場は、欧米を最需要地域として来たが、近年は中国やアジア、中南米の新興国向けの拡大傾向が顕著となっている。日本、欧州、米国では既に人口に対するモバイルPCの浸透率が高く、今後は買い替え需要中心の市場となる。一方、中国を中心とする新興国ではモバイルPCの浸透率が20%未満で今後も高水準で増加し続けると推測される。特に中国市場の拡大が顕著で、大画面ホームユースノートブックPCとして15インチクラス及び低価格CPUを搭載したローエンドのノートブックPC及びミニノートブックPC市場が急成長している。

1. スレートPC

スレートPCは、インターネット閲覧を主眼としたネットブックPCからの買い替えと、PDA、電子書籍専用端末、ポータブルメディアプレーヤを1台に集約するPCとして市場を取り込むため、モバイルPCとは殆ど競合せず拡大していくと推測される。また入力がタッチパネルであるスマートフォンとも競合せず、独自の市場を形成していくと推測される。機能は重複するが、通話と日常メールはスマートフォン、スレートPCの主用途はインターネットの閲覧、動画や電子書籍閲覧と区切りが出来て相互に競合せずに拡大していくと推測される。スレートPCの購入層にはスマートフォンユーザーが多く、ディスプレイが小さいスマートフォンの補完ツールとして購入するユーザーが多い。またスレートPCでの通話はサイズが大きいためスマートフォン/フィーチャーフォンほど手軽に出来ず棲み分けが出来る。スレートPCの売れ筋サイズは10インチ、5インチクラスのニーズがスマートフォンに集中する傾向が強い。

ノートブックPCやミニノートブックPCと比較すると搭載されている機能も最適化されており通常のPCの起動よりも早く、入力もキーボードより簡易なタッチパネルであるため、ホームユースのライトユーザーに適しているということも利点であり、ネットショッピングを主用途としているユーザー向けにも拡大していくと推測される。スレートPCは所有すれば便利な機器であり今後インターネットサービスの充実や利便性の追及、低価格化の実現により、さらに市場は拡大していくと推測される。

また、ビジネス用途でもスレートPCは文書の閲覧、メールチェックの「見る」・「閲覧する」の点にあり入力作業はメインではない。

スレートPCが競合する機器は、ネットブックPCと、ポータブルメディアプレーヤ、電子書籍専用端末、PDAが挙げられる。比較的機能を特化したデバイスが多く、スレートPCがこれらの機能を統合する機器になる可能性が高いことから、これらの需要を取り込んで市場を形成すると推測される。

電子書籍専用端末は、スレートPCが同じ機能を果たすことから需要を取り込まれる。機能を特化して軽量化と電池の長寿命化をさらに高めればニーズを保持することも可能と推測される。

2. 既存モバイルPC

ディスプレイ13インチ以上のノートブックPCは、10年に前年比20.3%増の1億4,040万台、欧米のほか中国向けの新規需要も急激に増加した。現在は15インチ以上の大画面ノートPCが堅調に拡大している。

10-13インチのミニノートブックPC市場は、前年比88.4%増の3,090万台、欧米および中国での拡大が牽引している。ビジネス用途は10インチにシフトしており携帯性、軽量化が重要視されている。長期的にはノートブックPCより高い成長率と推測される。

小型・低価格化を追求したUMP/ネットブックPCは普及が一巡して10年には3,200万台、前年比91.4%とマイナスに転じた。このタイプはモバイルPCのインターネット閲覧用2台目マシンとして市場を拡大してきたが、スレートPCへ需要がシフトしていること、ハードなキー入力に不向きなこと、新興国においては、1台目モバイルPCとしてはスペックが低いことから需要が低下している。10年にはスマートフォン及びスレートPCへ需要がシフトする傾向が見受けられ、ネットブックPCの欧米での需要減少が著しい。

3. 注目されるモバイルPCの主要構成部品

11年の世界市場は前年比11.3%増の7兆7,627億円となる見通しである。10年はリーマンショックから順調に回復して大幅に拡大基調であったが、11年はチップセットトラブルや第1四半期の在庫調整や3月11日の東日本大震災の影響で、素材や部材の調達が困難になり、市場の拡大幅は緩やかになると推測される。しかし、需要自体は存在しているため、12年以降は再び高成長に転じると予測される。

CPU 2020年予測4兆1,490億円(10年比223.7%)

PCのデータ演算処理を行う部材で11年以降は、スレートPC専用OSの登場、さらなるデータ処理量の増大、低消費電力化の観点からデュアルコアCPUを用いた設計が中心となりさらに処理性能が向上していく。

ソリッドステートドライブ(SSD) 2020年予測8,668億円(10年比483.7%)

NAND(不揮発性記憶素子)フラッシュメモリを使用したドライブである。PCのストレージは容量当たりコストの低いHDD(ハードディスク駆動装置)が主役であったがファイルへのアクセススピードが速く起動時間が短い、ショックに強く、低電力、省スペースで有利なSSDの搭載が徐々に増加している。モバイルPC向けSSD市場はスレートPCが牽引しており、現在製品化されているスレートPCはほぼ全てSSDを採用している。今後スレートPCへの参入メーカーの増加が予測される中、将来的にもスレートPCのモバイル性や低容量帯に向くSSDの特性を考慮すると採用が続くと考えられる。数量、金額とも大成長が続くと予想する。

静電容量式タッチパネル 2020年予測3,790億円(10年比680.4%)

この方式は、AppleがiPodに採用して拡大した。特にiPhoneで採用されたことから、携帯電話端末向けで主流となり大きな市場となっている。スレートPCでは、すべての機種にタッチパネルが採用されマルチタッチが可能なデバイスが好まれている。

無線LANチップ 2020年予測1,404億円(10年比268.5%)

この製品はスレートPC、ノートPCでは標準装備で、ほぼ100%の搭載率となっている。スレートPCに搭載される無線LAN(Wi-Fi)チップはモジュール化され携帯電話向けの無線LANとBluetooth統合チップが実装されている。

GPSチップ 2020年予測701億円(10年比1894.6%)

スレートPCでは主力OSのiOS、Android端末が多く採用しておりGPS機能が必須となっている。ただ、携帯電話にGPSが標準装備されており、大型PCには特に必要ないという見方がPCメーカーにあり今後も搭載は拡大しないと考えられる。

以上

モバイルPCの分類

	ディスプレイサイズ	形 状
ノートブックPC	13インチ以上	クラムシェルタイプ
ミニノートブックPC	10 - 13インチ	クラムシェルタイプ
UMPC	10インチ未満	ミニノートPCと同等性能のハイエンドモバイルPC
ネットブックPC	12インチ未満	Intel「ATOM」および他社同等性能CPU搭載機
コンバーチブルPC	制限なし	キー操作とペンタッチ両用のPC
スレートPC	制限なし	全面タッチパネル

<調査対象>

調査対象品目 モバイルPC 5種 主要構成部材 7種 31品目
PCメーカー 10社

<調査方法> 富士キメラ総研および協力調査会社の専門調査員による調査および関連文献、データベースを併用

<調査期間> 2011年3月~4月

資料タイトル : 「モバイルPCとキーデバイスの実態調査及び市場展望」

体 裁 : A4判 287頁

価 格 : 120,000円 (税込み126,000円)

CD-ROM付価格 : 140,000円 (税込み147,000円)

調査・編集 : 株式会社 富士キメラ総研 研究開発本部 第一研究開発部門

TEL:03-3664-5815 FAX:03-3661-5134

発 行 所 : 株式会社 富士キメラ総研

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2 - 5 F・Kビル

TEL03-3664-5839(代) FAX 03-3661-1414 e-mail:info@fcr.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。

URL : <http://www.fcr.co.jp/> <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>